

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	百貨店（売場担当）	・新入学、新生活に向けての需要にこたえる商品構成にしていく。また、団塊世代を取り込む魅力あるイベントの計画があり、この層の行動が大きな売上につながる。
		住関連専門店（経営者）	・当月が底の状態なので、先行きは必然的に良くなる。
	やや良くなる	一般小売店〔カメラ〕（店長）	・天候には左右されるが前年より過ごし易く期待できる。冬祭りなどの行事もあるので客の行動も活発になる。デジタルカメラの新製品発売が予定されている。
		コンビニ（店長）	・コンビニ業界は苦戦が続いているが、客のニーズに合う店作り、品ぞろえをしている店舗では業績が上向いているという情報もある。市内では建設工事が盛んになりつつあるので、この春から売上が上昇してくる。
		衣料品専門店（経営者）	・新入学、進学による需要もあるが、春物衣料についてはニーズに合う品ぞろえをすれば購買は増加する。
		衣料品専門店（店長）	・前年は寒さが厳しく春物の動きが遅かったが、本年はこの陽気からすれば春物の先行的な需要も見込める。
		衣料品専門店（店長）	・実需型の客層による冬物需要が安定しているなか、シーズン先行の春物商材が動き始めているため、春物の本需要にも期待が持てる。
		衣料品専門店（店長）	・リクルートスーツ目的の来客数が増えている。3月はフレッシュ商戦の時期であるが、現在までのリクルートスーツ需要からすれば売上は回復する。
		家電量販店（店長）	・新OSの発売に伴いパソコンは上昇基調となる。また、新生活関連商品も動き始めている。液晶テレビはこのところ鈍化の気配もあるが、地上デジタル放送も開始されていることから徐々に良くなる。
		乗用車販売店（経営者） 観光名所（職員）	・年間最大の需要期であるとともに、2月には新型車が発表されることになっている。 ・前年の同時期よりも予約数が増えている。今月よりは良くなる。
	変わらない	商店街（代表者）	・急激な悪化は考えにくい良くなるという確信も持てない。消費は微妙な状態である。高齢者の購入度合いが落ち気味になっている様子は気掛かりである。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・漁港の街であるが漁業関係者はびりびりしている。建設業界はリフォームに力を入れているが、一時期のような華やかさは無い。市内で名のある建設会社は従業員が半分になった。観光にも力を入れているが先行きは不透明である。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・花粉症関連の商品が売れる時期になるが、予報では花粉の発生が少ないとのことであり、売上への貢献度が小さくなることから、現状とそれほど変わらない。
		一般小売店〔雑貨〕（企画担当）	・暖冬によって来客数は増えている。今後の消費は所得環境よりも、天候などの外部要因によって一高一低の動きが続く。
百貨店（売場主任）		・このまま暖冬が続けば春物の売行きは順調に推移するが、冬物セールの落ち込み分をカバーできるかは不透明であり不安もある。予測がつきにくい状況である。	
百貨店（広報担当）		・直近の2、3か月の動きをみると、ボーナス商戦も期待ほどの活況感はなく、売上も好不調を繰り返している。個人所得の実質的な増加がない状況では消費はなかなか伸びない。	
スーパー（経営者）		・格差社会といわれるが、この地方においては優良な地場企業が無いこともあり、良好な雰囲気は無い。堅実な消費行動、売手からすればシビアな状況が続く。	
スーパー（店長）		・12月に出店した競合店の影響も少なく数値の変化も無いため、このまま推移する。	
スーパー（店長）		・来店する客の声を聞くと、景気が回復していると感じている人はほとんどいない。	
スーパー（企画担当）		・今後も暖冬が予測されていること、商圏内への競合出店が続くことなど、大きな変化は見込まれない。	
コンビニ（経営者）	・来客数は減少傾向であるが、客単価、買上点数が微増傾向であるため総じて変わらない。近隣競合店との差別化を図っていく。		
コンビニ（経営者）	・雪が少なく除雪業者の動きが無いため、来客数、客単価共に期待できず、現状のやや悪い状況が続く。		

コンビニ（エリア担当）	・瞬間的な所得税の減税はあるが6月から住民税が上がり実質的な負担は増える。それ以上に手取りが増えれば良いが、地元の中小企業の就業者は難しい。客層はそのような人が多いので今後も厳しさが続く。										
コンビニ（エリア担当）	・話題になる新商品がある時や販促キャンペーンの期間中はある程度売上が回復するが、一時的なものであり、その期間が過ぎればまた元に戻ってしまう。										
衣料品専門店（経営者）	・冬物のセールは今のところ順調であるが、春物のプロパー価格での販売時期になると購買行動は再び渋くなる。										
衣料品専門店（経営者）	・地方の中小企業は依然として厳しい状況が続いているため、消費の拡大にはつながらない。										
衣料品専門店（総務担当）	・ここ数か月の売上高、来客数の推移をみても、今後良くなるような気配が無い。										
家電量販店（店長）	・全体的に来客数の減少と、単価の低下傾向が進んでいる。										
乗用車販売店（経営者）	・地方都市で営業しているが、景気の回復を如実に実感できる状況にない。9年、11年経過した高年式車の車検を「できるだけ安く」という要望が多く、客の節約意識の高さがうかがえる。地方ではボーナスが支給されない企業も多く、前年を少しでも上回ればよしとする状況である。										
乗用車販売店（従業員）	・11月に発表した新型車も市場活性化効果を失いつつある。最需要期に入るので販売数は増加傾向となるが、客の買い回りも増加する。										
その他専門店〔呉服〕（経営者）	・老後の生活などに不安があるため、周囲の人は買うことよりもためることに重点を置いている。										
その他専門店〔酒〕（営業担当）	・人事異動の季節ではあるが、需要は例年並みと想定している。多少厳しさが増しているような感触はある。										
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・暖冬による原油価格の下落は一時的なもので、基本的には上昇局面を向かえる。末端価格へのコスト転嫁がスムーズに進まず収益を圧迫する。需要も前年を下回る状況が続く、収益が上がる要素はない。										
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・この先も暖冬の影響が続く、販売量、単価共に現在の不振が継続する。業界として厳しさが続き、今後不安を感じている。										
一般レストラン（経営者）	・景気は回復傾向にあるといわれるが、はっきりとした動きはみられない。予約の状況もここ数年変わらなない。										
一般レストラン（スタッフ）	・金利も据置かれており、3か月先もこのままで変わらない。										
観光型旅館（経営者）	・全国的には景気が上向いているとの報道がなされているが実感はない。一部の有名な温泉地で好況が伝えられるものの、当地では昨年の1年間は来客数を大幅に減らしているのが現状である。土曜日の予約率は高いが、平日の予約状況は相変わらず低迷しており、好転する気配がみられない。										
都市型ホテル（経営者）	・一時の低迷を脱し、状況は落ち着きつつある。歓送迎会の時期で個人単位の利用が例年どおり見込まれる。										
都市型ホテル（スタッフ）	・堅調な個人消費を上回る競争激化のため、売上の好転は見込めない。										
都市型ホテル（スタッフ）	・客の反応からして、来客数、単価は変わらない。先行の受注状況も前年並みである。										
遊園地（経営者）	・旅行代理店からの問い合わせが少なく、団体客の立ち上がりは遅い。										
住宅販売会社（従業員）	・2月から連続して内覧会を実施するが、現在の状況からすれば新規客の集客は難しい。管理客からの契約率を上げることが主たる目的となる。										
やや悪くなる	<table border="1"> <tr> <td>商店街（代表者）</td> <td>・新規出店もあるが、全体的には初売り後の中だるみ、暖冬による苦境も伝えられるようになり、先行きは厳しい。</td> </tr> <tr> <td>商店街（代表者）</td> <td>・郊外大型店の進出に加え、暖冬の影響で冬のイベントが中止になるなど、中心商店街の集客が盛り上がり続いている。</td> </tr> <tr> <td>一般小売店〔書籍〕（経営者）</td> <td>・競合店の伸長が今後の懸念材料である。また、別の競合先による新規出店が話題になっている。</td> </tr> <tr> <td>百貨店（経営者）</td> <td>・長期気象予報では、春が遅く3月ごろに寒さが到来する懸念があるとのことで、春物需要に影響するおそれがある。</td> </tr> <tr> <td>百貨店（販促担当）</td> <td>・競合する他のエリアに大型店が出店するため、一時的な客の流出は避けられない。しかし、4月には政令指定都市への移行が予定されており、ビジネスチャンスとしてとらえていきたい。</td> </tr> </table>	商店街（代表者）	・新規出店もあるが、全体的には初売り後の中だるみ、暖冬による苦境も伝えられるようになり、先行きは厳しい。	商店街（代表者）	・郊外大型店の進出に加え、暖冬の影響で冬のイベントが中止になるなど、中心商店街の集客が盛り上がり続いている。	一般小売店〔書籍〕（経営者）	・競合店の伸長が今後の懸念材料である。また、別の競合先による新規出店が話題になっている。	百貨店（経営者）	・長期気象予報では、春が遅く3月ごろに寒さが到来する懸念があるとのことで、春物需要に影響するおそれがある。	百貨店（販促担当）	・競合する他のエリアに大型店が出店するため、一時的な客の流出は避けられない。しかし、4月には政令指定都市への移行が予定されており、ビジネスチャンスとしてとらえていきたい。
商店街（代表者）	・新規出店もあるが、全体的には初売り後の中だるみ、暖冬による苦境も伝えられるようになり、先行きは厳しい。										
商店街（代表者）	・郊外大型店の進出に加え、暖冬の影響で冬のイベントが中止になるなど、中心商店街の集客が盛り上がり続いている。										
一般小売店〔書籍〕（経営者）	・競合店の伸長が今後の懸念材料である。また、別の競合先による新規出店が話題になっている。										
百貨店（経営者）	・長期気象予報では、春が遅く3月ごろに寒さが到来する懸念があるとのことで、春物需要に影響するおそれがある。										
百貨店（販促担当）	・競合する他のエリアに大型店が出店するため、一時的な客の流出は避けられない。しかし、4月には政令指定都市への移行が予定されており、ビジネスチャンスとしてとらえていきたい。										

	百貨店（経営者）	・今月は初売りやクリアランスセールなど価格面での魅力に加え、雪が少なく来客数が伸び、売上が伸びたが長続きしない。この先の春物商戦でプロパー商品の販売がメインとなれば元の状態に戻る。	
	スーパー（経営者）	・暖冬の傾向がそのまま進めば農作物にも影響が出るため、主な客層である農家に打撃を与える。	
	スーパー（経営者）	・年度末を迎えるが、公共事業の削減、雪不足による除雪費の減少などで建設業が厳しい状況になっている。	
	乗用車販売店（経営者）	・保有期間の延長、軽自動車や中古車への移行により新規登録車数は減少傾向が続く。中古車市場も新車の伸び悩みに伴い商品車の確保が困難になっているため、販売は前年を下回る。	
	乗用車販売店（経営者）	・少雪傾向は決定的で、例年は厳しい季節に発生する機械類の不調によるサービス需要が、今年の2、3月は激減する。	
	自動車備品販売店（経営者）	・除雪及び冬季需要関連の仕事が振るわず、該当する会社の体力が更に低下する。その影響で個人消費も振るわない。積雪不足による水不足も今後じわじわと現れ、農作物にも甚大な被害が出る。	
	その他専門店〔酒〕（経営者）	・積雪が無く雪祭りの開催は困難である。前年の大雪も大変だったが、降雪が極端に少ないことも観光などに大きな影響を与える。	
	高級レストラン（支配人）	・来客数は増えても客単価が下がり厳しい状況になっている。人件費が掛かりすぎて利益にならない宴会が増えている。	
	一般レストラン（経営者）	・「景気が良くない」「見通しが立たない」という話を客からよく聞く。以前は気にしてなかったが、度々聞くようになったので最近では危機感を感じるようになった。	
	観光型ホテル（経営者）	・2～4月はローシーズンであり、さらに4月には統一地方選挙もあり打つ手がない。それを補うため学生のオリエンテーションなどを積極的に受け入れている。地域全体の入込が悪く値崩れを起こしているところもある。金曜日の入込の減少が気になっている。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・県議選、市議選があり、その先には参議院選挙もある。過去の経験から選挙の年は客足が鈍ったり、会合などが控えられたりする。国体が開催されるが期間も短いため、これらの不振分をカバーするまでにはならない。	
	旅行代理店（従業員） タクシー運転手	・統一地方選挙などにより、人の動きが鈍くなる。 ・当地域では景気が回復している様子が見られず、乗客が減少しているにもかかわらず、タクシー車両は増加が続いている。このような状況では景気は改善しない。	
	その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・金利の据置きはやや明るい材料であるが、暖冬による売上不振が著しく、市中をみても活気が全く感じられない。	
	悪くなる	スーパー（店長） コンビニ（経営者） タクシー運転手	・4月には大型店が出店予定である。商圈全体がその大型店に飲み込まれ、落ち込む。 ・暖冬で客足が伸びても良さそうだが伸びていない。今一度、店内の総点検を実施する。 ・タクシー会社がまた4社ほど増え、お互いに足の引っ張り合いになる。割り込みなどを巡り運転手同士の争いも絶えない。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（総務担当） 建設業（企画担当）	・原油価格の低下で燃料費や包装材料費のコストが下がり、収益の改善が進む。 ・仙台一極集中であるが、大型プロジェクト案件が出件される予定である。ただし、コスト競争は激化の一途をたどっており、損益的に改善するかどうかは疑問が残る。
		輸送業（経営者） 広告業協会（役員）	・原油が値下がり傾向であり、燃料の軽油価格も値下がりする。 ・マスメディア関係は依然として厳しいが、セールスプロモーション関係の広告作業が忙しくなってきた。
	変わらない	食料品製造業（経営者） 食料品製造業（経営者） 土石製品製造販売（従業員） 一般機械器具製造業（経理担当）	・牛タンについてはアメリカからの原料輸入が増えない限り状況は改善しない。 ・原料、資材の更なる値上げも見込まれ採算的に厳しい。今の景気では売上も上昇傾向にはならない。 ・年度末の工事は例年のことなので、景気回復までの影響はない。 ・自動車部品については輸出を中心に好調を持続する。ただし、国内の自動車販売に陰りがみえることが気掛かりである。

	建設業（経営者）	・地域の人口減少や高齢化の進行が今後の売上への懸念材料である。	
	建設業（従業員）	・建設業が業界としてどのように変革するのか不透明であり、各社が模索中である。	
	広告代理店（営業担当）	・大方の取引先から、これといった目新しい動きが出てこない。	
	公認会計士	・業種による二極化の進行、及び企業が賃金を抑制している状況から、当面は変わらない。	
	司法書士	・来年度の税制改正も住宅関連では現状を維持するのみで目新しさがなく、景気の動向を左右するものにはならない。実際に、住宅建築、購入の動機になっていない。	
	コピーサービス業（経営者）	・前年との比較ではマイナスが続いているが、ここ2、3か月でみると客先によってばらつきはあるものの大きな変化は無い。悪いなりに横ばいで推移していく。	
	その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・高単価商材の伸びはみられるが、レギュラー商品に関しては上昇する要因がうかがえない。	
	その他企業〔企画業〕（経営者）	・耐久消費財の売上につながる住宅の販売が低下したままである。	
やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・官公庁での一般競争入札が増えると受注価格の低下がますます進み、景気全体が悪化する。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・設備関係の業種では受注調整の動きが出ているとともに、コストダウンの要求も厳しく、先行きは悪化する。今以上に不採算機種を増やさないよう状況を見定めて、新規客への挑戦をしていく。	
	電気機械器具製造業（営業担当）	・価格低減のしわ寄せを中小企業に押し付けてきている状況が更に深刻化している。	
	電気機械器具製造業（企画担当）	・主力製品である半導体DRAMの取引価格が低下する見通しであり、現状よりは悪くなる。	
	通信業（営業担当）	・今後もユーザーからの価格値下げ要請は変わらず、解約を阻止するため50%以上も値引きを余儀なくされるケースもあり、自社のコスト低減も難しいなかで予断を許さない状況である。	
	新聞販売店〔広告〕（店主）	・当店のエリア内には水産業に携わる人が多いが、船会社の倒産、魚の値段の低迷、ノロウイルスによる風評被害などが重なり、購買力が落ちているため当分景気は改善しない。	
悪くなる			
雇用関連	良くなる	人材派遣会社（社員）	・民間企業の求人意欲が高くなってきており、前年比50%以上の伸びがある。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・県内各所の主だった製造業取引先は増産を計画し、年度末から年度初めに技術者増員の注文が来ている。また、通信や金融の取引先からも増員の打診がある。
		人材派遣会社（社員）	・比較的大きな案件の予定がいくつかみられ、ある程度は活況になる。同業他社もそれぞれ忙しそうにしている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・景気の先行指標といわれる求人数は一段落したが、大型店の開店が近いため地域としての景気は流通業を中心に良くなる。地元企業の求人出稿は横ばいであるが、大型店効果の波及が今後のかぎとなる。
		職業安定所（職員）	・新規求人に占める非正規社員の比率が高い点が気になるものの、求人数の増加傾向、求職者の減少傾向は維持する。
	変わらない	職業安定所（職員）	・自動車部品製造業など好調な企業でさえも、競争激化の影響による部品単価の引下げなどで利益が上がらず、従業員への還元は行われていない。求人も正社員以外のパート、嘱託が依然として6割以上を占めている。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は今年度8か月間前年比増となり、累計12.7%増となった。管内主要産業の動向は、食料品製造業では暖冬傾向による練り製品の売上減少や原油高による輸送コスト上昇に見舞われたが雇用には影響していない。工作機械製造業は多くの受注を抱えており、今後も堅調に推移する見込みで雇用の不足感を感じている。全体的にみれば雇用の過不足は適正となっており、正規社員の大幅な増加は当面見込めない。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・新潟県中越地震の震災復旧工事は3月でほとんどが終了する。なお、地場産業の工作機械、金型メーカーは引き続き好調に推移する。
		職業安定所（職員）	・パートの求人は増加しているが、全体的な求人数は減少している。また、有効求人倍率が下降気味である。
	悪くなる		